

突然の災害から地域や大切な人を守るための 「エセナおおた」避難所研修

【事業実施主体】

特定非営利活動法人
男女共同参画おおた

【連携団体】

町会長、自治会長、民生児童委員会、町会防災部長、マンション管理組合防災担当、消防署消防ボランティアの会、大田区自立支援協議会、大田区防災塾、防災まちづくりの会、大田区総務部人権・男女平等推進課、大田区社会教育課、大田区防災会議委員、男女共同参画センター（豊中市、仙台市）、弁護士（徳島市）、復興庁、内閣府、NPO法人ネットワークBear（子育て支援団体）、サードエイジサロン（男の生き方塾卒業生の会）、でき女の会（女の生き方塾卒業生の会）、エセナおおた職員、エセナおおたボランティア・スタッフ

【目的】

平成26年3月、大田区地域防災計画（平成25年度修正）により、大田区立男女平等推進センター「エセナおおた」への具体的な方向性が示された。それは、災害時には「女性のための相談窓口」と「女性の意見交換会」を早急に開設するなど、避難所では出しにくい女性の声を受け止めるために情報共有の場やサポートの場としてエセナおおたを活用していく、との内容。

このため日常の指定管理業務の中で前触れもなく起きる発災時の対応を、センター職員、事業担当リーダー、ボランティア・スタッフ、NPO法人男女共同参画おおた会員を始め、関連団体の方々と共にエセナおおたにおいて、「誰もが男女共同参画の視点が理解できる」防災一日研修を行なうこととした。

【主な取組】

エセナおおたは平成16年4月から指定管理者制度が導入され、「特定非営利活動法人 男女共同参画おおた」が指定管理者となり、管理・運営を行なっている。防災事業は平成19年より女性の視点を盛り込んだセミナー、講演会、講談づくり・披露、展示など、現在まで継続して行なっています。本事業は防災プロジェクトチームが中心になって事業運営を担った。

①男女共同参画の視点を盛り込んだ、区民への防災・復興のための一日研修とする。参加者は女性に限らず「どなたでも」とする。保育付とする。

②宮城県仙台市エル・パーク仙台館長加藤志生子さんより、東日本大震災発災時、センター管理中の対応の具体的な話と、センター再開後の事業運営、相談、来館者への手当等を聞く。

③備蓄用食料の試食会実施。

④避難所運営ゲームによって、具体的に、色々な立場の避難者を知ると同時に、避難所においての女性の視点を考える。シングルマザー、DV被害者の母子とそれを探しに来る夫、病児を連れた家族、高齢者、障がいのある方への配慮、トイレの封鎖、相談窓口開設、ペット、情報管理など、エセナおおた版として新たに制作したカードを使用。

⑤家庭、職場、避難所に必要な備蓄品の検証。Myトイレの推奨。

⑥報告書の作成

事業実施概要①

＜一日避難所研修の流れ＞

1. 加藤志生子さん基調講演(10:10~11:55) 「被災地仙台から学ぶ、日ごろの備えと発災後の対応」



- 復興期の女性支援
- 女性エンパワメントの視点からの取組
- 女性たちは社会を変える力も責任もある
- 大切なのは話し合える関係性
- 女性支援活動拠点「男女共同参画センター」
- 仲間とつながることから始まる女性たちのリーダーシップ



- 参加数 定員: 50名(申込先着順)
- 一般参加者: 59名(男性21名、女性38名)
- 主催者関連: 男性1名、女性6名、講師: 女性1名、内閣府: 女性1名
- 合計: 68名(男性22名、女性46名)

2. 非常食試食会(12:10~13:00)

＜各テーブル 8人分＞

- アルファ化米 パック詰め 箸
- お茶 ペットボトル
- おかず ハンバーグ、さば味噌煮、カレー(辛い・甘い)、筑前煮、いわし煮、タイカレー、肉じゃが、豚汁、缶づめ(焼き鳥・大根)、きんぴら
- テーブルに置く 割りばし予備用、ウェットティッシュ、ゴミ袋(分別)、小皿、スプーン
- ゴミバケツ2個

- 温めないで食べられるかの検証
幼児も一緒に試食
- 5~6年保存可能の物は高価なので、
毎年入れ替えをしながら食糧を備蓄する
- 避難所での食事当番は誰になるのか
性別役割分業について考える
- 食を囲むと話が弾む



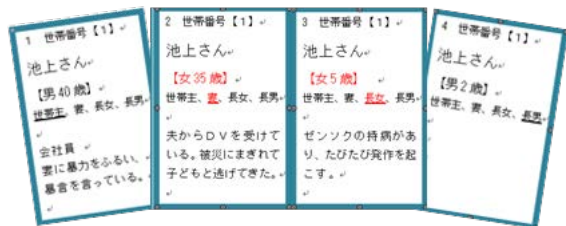
事業実施概要②

3. 避難所運営ゲーム(13:00~14:30)

- ①机2台で1グループ×イス8~9脚
- ②グループ名表示板、模造紙下敷きの紙(テープで止める)、学校見取図の模造紙、カードセット、ポストイット、マッキー、まとめ用紙、記録用紙
- ③年齢、男女、所属をみて、分かれるようにグループ分けを行なう。

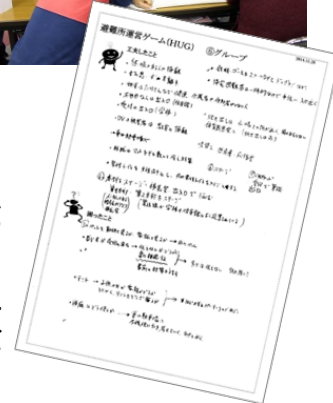
●性別による配慮の違いに焦点を置き、さらに多様性に配慮したエッセナおた版オリジナルカード作成

- ・トイレや更衣室など性別によるニーズの違いに配慮した避難所運営はどうあるべきか(トイレの位置、男女別にすべきか、更衣室は必要か等)
- ・家族にDVの被害者、加害者の避難所受入について等々、条件をなるべく細かく設定
- ・性的マイノリティーの方(カミングアウトしている場合、していない場合)
- ・妊産婦、赤ちゃん、幼児に対する環境づくり
- ・その他障がいや持病の有無、外国人への配慮、ペットを連れてきた方へのどのような対応が考えられるか



●各グループで困ったこと、工夫したことを発表

トイレは男女同じでよいという班と男女別にするという班があった。8~9名の班でも個人の意見を尊重するかどうかで避難所運営が変わる。また抱えている事情を申告する方もいれば、しない方もいる。特に女性は日ごろから我慢をして意見を言わない傾向にある。ニーズの違いを把握するために当事者の意見に耳を傾ける配慮が必要なことを学習した。



4. いざという時のために防災力アップ(備蓄品とトイレの使い方)(14:30~15:15)

災害時に一番にすることは通常のトイレの封鎖と、簡易トイレの準備。Myトイレを日ごろから準備すること。他人の汚物処理は誰もしたくはない。これも減災である。



事業効果

●区内他団体との連携

大田区内では各地域の町会自治会や市民団体、大田区防災課主催の防災復興の研修は幾度となく行なわれているが、そこに「男女共同参画の視点」が入ることは少ないのが実態である。

この事業が採択され同時に広報を開始したところ、多岐に亘る方々からの応募があり、当初の目的のひとつである「地域性」「あらゆるところとの連携」をつくりあげるには十分な人材がそろった。

そのうえ、この事業を通してテーマとなる男女共同参画の視点とともに多様性を理解するために作成した「エセナおおた版避難所運営ゲーム」は、「初心者でも具体的な困難を理解する」のにとっても役立ち、参加者からよくわかったという意見が多く寄せられた。また、各地域から講座依頼があり、それぞれ高評を得ている。

今後は地域の町会自治会などへ出向き、大田区内の女性や災害弱者といわれる方々への配慮の重要性を、エセナおおた版避難所運営ゲームを通して具体的に理解していただくよう周知していきたいと思っている。

今後の課題

平成26年末、東京での地震発生率の数字が発表され、より深刻なものに書き換えられた。

「男女共同参画の視点ということはわかるが、では具体的にどのように行なったらいいのか」、「地域防災に女性の視点をどのように話したらいいのか」など、各地から問い合わせと講座依頼が相次いでいる。

自助・共助・公助のみならず、日々変化するいろいろな立場の配慮を学習しつつ、今後に向けていつか来るであろう災害に役立つ、よりわかりやすい「防災」に励んでいきたいと思っている。

5. グループ別の感想を発表



6. 報告書作成

